

留 学 報 告 書

記入日：2012年8月5日



所属学部／研究科・学科／専攻	文学部史学地理学科アジア史専攻
留学先国	中国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	廈門大学 厦门大学
留学期間	2011年9月～2012年7月
留学した時の学年	3年生 (渡航した時の学年)
留学先での学年	3年生 (留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	人文学院 <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2012年7月22日
明治大学卒業予定年	2014年3月
留学先大学について	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期：9月中旬～1月下旬 2学期：2月中旬～7月中旬 3学期： (記入例/1学期：4月上旬～7月下旬, 2学期：9月中旬～2月上旬)
学生数	約 40,000 人
創立年	1921 年

留学費用項目	現地通貨 (人民元)	円	備考
授業料			
宿舍費	2200	27000円	大学の寮だと宿舍費用は無料だが、外で部屋を探すといけないこのくらいの値段。一ヶ月約 27,000 円くらいかかる。
食費	16,400	200,000円	
図書費			
学用品費	500	6,000円	
教養娯楽費	10,000	120,000円	留学中に旅行した場合にかかった費用
被服費			
医療費			
保険費	12,229	150,000円	形態：東京海上日動
渡航旅費	3,500	43000円	航空券と空港までの交通費
雑費	4,000	50,000円	留学先での交通費や学校内でかかった費用
その他			
合計			

渡航関連

渡航経路：直通便

渡航費用

チケットの種類	一ヶ月 FIX
往路	38,000 円
復路	38,000 円
合計	76,000 円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

航空券は ANA を利用。廈門直通便は ANA 一日一便しか出ていない。

滞在形態関連

1) 種類（留学中の滞在先）（例：アパート、大学の宿舎など）

マンション

2) 部屋の形態

個室 OR 相部屋（同居人数 ）

3) 住居を探した方法：

現地にいる親戚に探してもらった。

4) 感想：（滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス）

大学の宿舎は交換留学制度を使っていれば無料だが、もし寮に住みたくない場合には外で部屋を探すことはできる。大学周辺だと平均一ヶ月日本円で 3 万円ほど。部屋はマンションによって内装や値段が異なるため、現地の不動産に聞いて、実際に部屋を見て決めた方がよい。

現地情報

1) 現地で病院にかかったことはありますか？大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか？

利用する機会が無かった

利用した：学校内の診療所を利用したことはない。もし本当に病院に行かなければならない場合は加入している東京海上日動の指定病院（第一病院）に診察しに行くが良い。診察する以前に東京海上日動に連絡し、病状を説明した上で病院に行くが良い。

2) 学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

大学には留学生のための事務室があり、そこでは留学の全般的なことを取り扱っている。私は現地で何か問題があった時は現地にいる保証人の人や日本にいる家族に相談した。学校の事務的相談はほとんど、廈門大学海外教育学院の留学事務室で対応してくれるのでとても助かった。

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか？その際どのように対処しましたか？

廈門は中国の中でも比較的治安がいいので、心配することはない。ただ、盗難は多い。やはり日本にいる感覚で少しの間私物を置いておくだけで、すぐに取りられる。私は二度自転車を盗まれ、部屋の住所が書いてある鍵を盗まれた。自転車は再購入し、鍵は部屋の仲介業者の人に連絡し、部屋の鍵穴ごとかえた。

4) パソコン、携帯電話、インターネット（接続について）現地での利用はいかがでしたか。

（例：寮のインターネット接続が不安定で 1 週間に 1 度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。）

インターネットは一年間のネット契約（8,000 円）で契約した。中国ではネット規制が厳しいので、日本では開けるはずのページも開かないことが多い。その際多くの留学生は Freerate というソフトを入れインターネットのページを開いている。携帯電話は電話とメールができる一番単純な携帯を購入した。携帯電話はプリペイド式。一年間でかかった携帯料金は約日本円で 5000 円ほど。

5) 現地での資金調達はどうに行いましたか？（例：現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。）

中国でまず現地の銀行口座を開いた（中国建設銀行）。銀行口座はすぐ作れるので心配ないらしい。学校内にも銀行はあるのでとても便利である。日本からの送金は中国でも現金が引き出せる CityBank カードを使って引き出していた。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

特にないと思う。廈門は基本的な日用品は手に入るのだから日本から持って行くべきものはないと思う。

進路について

1) 進路	
<input type="checkbox"/> 就職	<input checked="" type="checkbox"/> 進学
<input type="checkbox"/> 未定	<input type="checkbox"/> その他：
2) 進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など	
3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)	
就職活動のことは留学から帰ってきてから考えました。留学中は留学のことだけに集中しました。	
4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。 (例：留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)	
5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。	
明治大学大学院 教養デザイン研究科	
6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。	
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。	

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
18単位	<input type="checkbox"/> 20単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由：)
2) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)：	履修した授業科目名(日本語)：
東南アジア社会史	東南アジア華人社会史
科目設置学部・研究科	人文学院
履修期間	半年
単位数	2
本学での単位認定状況	2単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式、ディスカッション形式、プレゼンテーション形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	陈衍德先生
授業内容	この授業は東南アジア華僑史という授業である。主に東南アジアに渡った華人の社会について学ぶ。 学生の数は一クラス100名~130名。毎回授業が始まる5分前に先生が出欠席を取る。板書はほとんどないので集中して聞き取りノートを作る必要がある。レジュメをアモイ大学のホームページにある個人ページに載せてくれるので事前に予習することもできる。また関連参考文献も紹介してくれる。毎回授業が終わる10分前に質疑応答の時間がある。進んで質問がない時は指名されるので、常に問題に対して考えや質問内容を考えておく必要がある。グループディスカッションの時間もある。これは不定期に行われるもので、いくつかのグループをつくりグループワークを行う。その成果を発表する。
試験・課題など	試験は2000字前後のレポート形式の試験を行う。試験内容は事前に教えてもらえる。課題は特に出されないが、先生が紹介した参考文献を読んでおくが良い。

感想を自由記入	授業はすべて中国語で行われるため、聞き取れないことや内容が理解できないこともあった。ですので、私は常に前の方の席に座って授業を受けていた。また、何か勉強面で手伝ってもらうことも多いので同じ授業内で中国人の友達を作るとよい。授業の内容が分からない時、私は事前に授業内容に関係する情報をネットで調べた。日本語でだいたいの内容を把握するだけでも、大分違う。授業がより分かりやすくなる。
----------------	---

履修した授業科目名（留学先大学言語）：		履修した授業科目名（日本語）：	
植物考古学		植物考古学	
科目設置学部・研究科	人文学院		
履修期間	半年		
単位数	2		
本学での単位認定状況	2単位認定（本学で認定された単位数を書いて下さい）		
授業形態	講義式、実験（チュートリアル、講義形式等）		
授業時間数	1週間に90分が1回		
担当教授	葛威先生		
授業内容	植物考古学の授業は選択必修の授業である。生徒の人数は20名前後。毎回PPTで授業を行う。しかし、先生の話すスピードが速いのでついていくのが大変です。時々、レジュメをくばってくれる。また植物考古学の実験も行う。授業で話したことを実際にやってみることもある。参考文献の紹介もある。		
試験・課題など	試験は先生と面接形式のものである。一人一人質問内容が異なるので、全体的に内容を把握しておくが良い。		
感想を自由記入	考古学の授業を受けるのは初めてだったが、すごく興味深い内容の授業だった。ただ講義式の授業ではなく、不定期に実験なども行うので分かりやすい。考古学の知識がなくても一から学べる授業である。		

履修した授業科目名（留学先大学言語）：		履修した授業科目名（日本語）：	
中級汉语（二）		中級中国語 2	
科目設置学部・研究科	海外教育学院		
履修期間	半年		
単位数	6/6		
本学での単位認定状況	2単位認定（本学で認定された単位数を書いて下さい）		
授業形態	講義形式（チュートリアル、講義形式等）		
授業時間数	1週間に90分が3回		
担当教授	周轶先生		
授業内容	中国語文法クラスは単語や文法を中心とした授業である。生徒数は一クラス15人。レベルによってかたよりのある。下のクラスほど生徒数は多い。また長い文章を読む。予習したほうが授業に追いつきやすい。宿題もほぼ毎日ある。提出する必要がある。また時にはテーマを与えられ作文を作ることもある。		
試験・課題など	試験は5課に一度試験がある。問題はそれなりに難しい。また問題数が多いので時間が足りない。試験は一学期の間に二回行われる。中間、期末試験。		
感想を自由記入	この授業は中級より少し上のクラスであるため、使っている教材内容も難しい。しかし、文章の内容は中国の文化などを紹介したものが多く、中国語を学ぶ一方中国の文化も理解できるのでとても良い。基本的に文法などは細かく教えてくれないので、自分でやるしかない。分からないことは先生が分かりやすく教えてくれるので心配はいらない。		

履修した授業科目名（留学先大学言語）：		履修した授業科目名（日本語）：	
中級汉语口语（二）		中級中国語会話 2	
科目設置学部・研究科	海外教育学院		
履修期間	半年		
単位数	4		
本学での単位認定状況	2単位認定（本学で認定された単位数を書いて下さい）		
授業形態	講義形式、プレゼンテーション形式（チュートリアル、講義形式等）		
授業時間数	1週間に90分が3回		
担当教授	刘小斌先生		
授業内容	会話クラスは基本プレゼンテーションがメインである。教科書の内容を解説した後に、自分の国ではどうなのかについて一人 3-5 分のプレゼンを行う。その際に PPT を作成する必要がある。試験もすべてプレゼン。先生は発表と PPT の内容で成績を評価するので PPT も作れるようにする必要がある。クラスの雰囲気はよく生徒数は 20 名くらい。宿題はないがプレゼンの用意が宿題のようなものである。		
試験・課題など	PPT でプレゼンテーションを行う。一学期に二回。中間、期末試験。		
感想を自由記入	中級クラスのレベルになると、ほとんどの人は中国語を話せるので中国語のレベルを上げるにはちょうどよい。また、プレゼンテーションで各国の様々な文化を発表を通して学べるのでおもしろかった。		

履修した授業科目名（留学先大学言語）：		履修した授業科目名（日本語）：	
中級汉语听力（二）		中級中国語リスニング 2	
科目設置学部・研究科	海外教育学院		
履修期間	半年		
単位数	4		
本学での単位認定状況	2単位認定（本学で認定された単位数を書いて下さい）		
授業形態	講義形式（チュートリアル、講義形式等）		
授業時間数	1週間に90分が1回		
担当教授	谢秋萍先生		
授業内容	リスニングの授業は最初新しい単語や文法を説明され、次にその日に扱う文章の内容を 10 分くらい授業内で予習する。それから、一度内容を全部聞き、二度目は一段落目をもう一度聞き、それから内容読解の問題を解く。その後二段落目に内容を聞き、内容読解の問題を解く。リスニングの内容は意外に難しい。また、自分の意見を文章で書くこともある。試験は以前に教科書でやった部分と新しい内容のところの二部から構成されている。ですので、以前にやったところは復習する必要がある。クラスの生徒数は 10 人くらい。先生はとても説明が丁寧で分かりやすい。		
試験・課題など	リスニングの試験。過去にやった文章と新しい文章の二つで構成されている。リスニングの内容について自分の意見を書く場合もある。		
感想を自由記入	リスニングの授業は少し退屈だが、いろいろな文章を聞いて読解するので中国語の勉強にはなる。しかし、レベルは高い。リスニングのスピードも速い。		

履修した授業科目名（留学先大学言語）：		履修した授業科目名（日本語）：	
中国航海歴史地理		中国航海歴史地理	
科目設置学部・研究科	人文学院		
履修期間	半年		
単位数	2/32		
本学での単位認定状況	2単位認定（本学で認定された単位数を書いて下さい）		
授業形態	講義形式（チュートリアル、講義形式等）		
授業時間数	1週間に90分が1回		
担当教授	周运中		
授業内容	主に中国沿岸の地理の歴史について学ぶ。時には、中国だけではなく中国沿海に関係の深い日本、朝鮮半島、東南アジアの地理史にもふれる。地理史から見る当時の貿易や航海ルートなどを探る。授業では史料に載っている地図と現在の地図を使って比較を行うこともある。現在の地理を理解していると、授業の内容も分かりやすい。		
試験・課題など	試験は自由レポートである。自分の興味、感心がある地理史に関係のある問題を決め2000字程度のレポートにまとめる。		
感想を自由記入	授業は90分休憩なし。最初授業の内容が理解できず困っていたが、先生が紹介してくれる参考文献などを参考にしながら授業を受けたら内容が理解しやすかった。今まで地理の角度から歴史を捉えることはなかったが新たな角度で貿易史や中国沿海の歴史を捉えることができるのでおもしろかった。しかし、テーマが全く決められていないのでレポート作成は大変だった。		

履修した授業科目名（留学先大学言語）：		履修した授業科目名（日本語）：	
当代东南亚政治		東南アジア政治学	
科目設置学部・研究科	人文学院		
履修期間	半年		
単位数	2/32		
本学での単位認定状況	2単位認定（本学で認定された単位数を書いて下さい）		
授業形態	講義形式（チュートリアル、講義形式等）		
授業時間数	1週間に90分が1回		
担当教授	陈衍徳先生		
授業内容	この授業は近現代の東南のアジア政治について学ぶ。中国の政治というより東南アジア各国の政治について学ぶ。最初は各国の政治を学び、その後それぞれの国と国の政治の相互関係について学ぶ。毎回講義の終わる10分前にディスカッションの時間があり、生徒が自由に質問したり自分を意見を述べるができる。		
試験・課題など	試験は2000字前後のレポート形式の試験を行う。試験内容は事前に教えてもらえる。課題は特に出されないが、先生が紹介した参考文献を読んでおくが良い。		
感想を自由記入	この授業で一番難しかったことは各国の指導者の名前を中国語で覚えることだった。流れを抑えていてもいったいどの人物を指しているのか分からないことが多々あった。そのため、授業の前にその国の政治指導者や政治についてネットで調べた。		

履修した授業科目名（留学先大学言語）：		履修した授業科目名（日本語）：	
高級汉语（一）		上級中国語 1	
科目設置学部・研究科	海外教育学院		
履修期間	半年		
単位数	6/6		
本学での単位認定状況	2単位認定（本学で認定された単位数を書いて下さい）		
授業形態	講義形式（チュートリアル、講義形式等）		
授業時間数	1週間に90分が3回		
担当教授	郭建花先生		
授業内容	中国語文法クラスは単語や文法を中心とした授業である。生徒数は一クラス20人。長い文章を読みその後内容の読解を行う。予習したほうが授業に追いつきやすい。宿題もほぼ毎日ある。宿題は授業内で答え合わせする。また時にはテーマを与えられ作文を作ることもある。これは提出が必要。		
試験・課題など	試験は5課に一度試験がある。問題はそれなりに難しい。また問題数が多いので時間が足りない。試験は一学期の間に二回行われる。中間、期末試験。		
感想を自由記入	上級クラスになると扱う文章の内容も難しくなり、故事成語も覚えなくてはならなかったため最初は大変だった。しかし、故事成語の意味や言葉の背景を理解しながら覚えるとおもしろい。試験は初見問題も出されるので、日頃から中国語の文章などを少し読んでいた方がよい。全体的に内容が難しかったが、語学のレベルを上げるには最適である。		

履修した授業科目名（留学先大学言語）：		履修した授業科目名（日本語）：	
高級汉语口语（一）		上級中国語会話 2	
科目設置学部・研究科	海外教育学院		
履修期間	半年		
単位数	4/4		
本学での単位認定状況	2単位認定（本学で認定された単位数を書いて下さい）		
授業形態	講義形式、ディスカッション形式（チュートリアル、講義形式等）		
授業時間数	1週間に90分が2回		
担当教授	刘小斌先生		
授業内容	会話クラスは基本プレゼンテーションがメインである。教科書の内容を解説した後に、自分の国ではどうなのかについて一人3-5分のプレゼンを行う。その際にPPTを作成する必要がある。試験もすべてプレゼン。先生は発表とPPTの内容で成績を評価するのでPPTも作れるようにする必要がある。クラスの雰囲気はよく生徒数は20名くらい。宿題はないがプレゼンの用意が宿題のようなものである。		
試験・課題など	PPTでプレゼンテーションを行う。一学期に二回。中間、期末試験。		
感想を自由記入	上級にもあると、生徒のほとんどが中国語をすらすら話せる。授業で自分の意見を述べる機会が多いので、それぞれのテーマについて自分自身の考え方を持つことが大切である。また、週に一回小さいグループを組んでディスカッションを行うこともあり、いろいろな国の人の意見を聞くことができるのでとても楽しい。		

留学に関するタイムチャート

留学までの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。
(形式は箇条書きなど簡単なもので構いません)

2011年 1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> • 留学の資料作成 • 中国語の検定試験(HSK5 級)の勉強
4月～7月	<ul style="list-style-type: none"> • 中国語の勉強 • ゼミの先生と卒論についての面談 • 留学先の現地に行ってみる
8月～9月	<ul style="list-style-type: none"> • 中国語の勉強 • 留学先の住まい探し • 廈門大学の入学手続き
10月～12月	<ul style="list-style-type: none"> • 通常の授業 • 留学中間報告の作成
2012年 1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> • 通常授業 • HSK6 級の試験勉強
4月～7月	<ul style="list-style-type: none"> • 通常授業 • HSK6 級試験 • 帰国の準備 • 帰国 7月 22 日
8月～9月	<ul style="list-style-type: none"> • 単位交換認定の書類作成 • 卒論準備 • 後期の時間割作成
10月～12月	<ul style="list-style-type: none"> • 通常授業